

企画活動名	第 5 回ふくおか食物アレルギー攻略法講座（講演会・試食会） －園/学校生活攻略法および災害時に生き抜く方法お教えします 2－
フリガナ	シバタ ルミコ
申請者（代表者）氏名	柴田 瑠美子
団体名（正式名称）	団体名：特定非営利活動法人福岡食物アレルギーネットワーク 申請者の役職・肩書など：理事長

1. 活動結果要約

当初は、昨年の講演会で災害対策が大好評であったため、引き続き災害対策をメインに企画していた。しかし新型コロナウイルス感染症が蔓延しだし、当団体へも新型コロナウイルス対策の相談が増え始めた。そこで、新型コロナウイルスに関する最新の情報とアレルギーとの関係、さらに災害時の集団生活で今回のような感染症が蔓延した場合の対策等をメインに企画を変え、患者家族、患児を預かる園/学校関係者の不安を払しょくする企画とした。

新型コロナウイルスのことも少しずつわかってきており、アレルギー児特に喘息児ではむしろ罹りにくいとの報告も出ていることをご紹介します安心してもらい、アレルギーの基礎講義に加え、基本的な感染症対策と感染症蔓延下での災害対策を盛り込み講義を行い知識を習得してもらい不安を払拭していただいたことで、アレルギーによる事故もゼロに近づけることができると考える。

今回は本講座の動画配信をおこなっており、参加できなかった方々へも広く啓発ができています。エピペン使い方講習動画については、園、学校から職員研修用に使用したい旨の要望もいただいております、これからはしばらくエピペン講習が中止されている状態のため、広く利用していただいてもその時に対応できる状態にさせていただける。

2. 活動目的

- 1、食物アレルギーとは何かを基礎からしっかりと学び、まずは日常生活が円滑に行える状態になるようにしっかりと理解しておく。
- 2、食物アレルギー児が新しく集団生活を始めるにあたって事故の無いように生活する方法を保護者、園/小学校関係者ともに知っておく必要がある。
- 3、災害時に食物アレルギー児は、配給の食料、炊き出しの材料、飲料（乳児の場合ミルク）、薬、皮膚症状や呼吸器症状の悪化等 多くの困りごとが出てくる。特に災害時に感染症が同時に発生する場合の想定もしておかなければならない。
災害が起きてから あわててアレルギーに関する理解を求めても対応は難しく、また自治体は市民全体に対応する食料や医薬品を備蓄しているわけではないことを理解する必要がある。
そこで平常時に 災害に備えた、家庭や園での備蓄品、薬の管理、スキンケア、埃などの呼吸器症状対策、アレルギー食等の対策、感染症対策を十分にしておく必要がある。

これらにより、患者家族および患児を預かる園/学校関係者が、感染症対策含めた集団生活と災害時の不安を払拭できるとともにアレルギーによる事故をゼロに近づけることができる意義がある。

3. 活動方法

<計画と結果>

- ・2020年10月のいずれか1日に180分程度 → ○ 2020年10月25日 12:30～16:00 210分
- ・福岡市内の会場で → ○ 福岡市立東市民センター 会議室
- ・アレルギー専門医師を講師として → ○ アレルギー専門医6人講師 座長2人
- ・対象は、福岡及び近郊の食物アレルギーのおこさんをお持ちの保護者（特に新入園新入学のお子さんをお持ちの保護者）および園/小学校関係者の合計80名に対し、食物アレルギーとは何かを正

しく理解していただき、集団生活の注意点さらに災害時の対処方法を学んでいただく

➔ △ 参加者計画は 80 名程度を考えていたがコロナウィルス禍により 55 名参加となった

・ 講座内容

1) 講義 演題 6 題 ➔ ○ 計画通りの演題 6 題実施

2) 講演会後に アレルギー対応災害時非常食の試食会

➔ ×△ コロナウィルス禍により中止 　ただしアレルギー対応食メーカーさんのご協力で資料の展示/配布と一部サンプルを配布でき啓発ができた

3) 計画にはなかったが、参加者募集を絞ったため参加できなかった方用および参加者復習用に講義を動画に撮り配信を実施した

4. 結果及び波及効果

<実施した講義>

第 1 部-1 皮膚バリアとアレルギーの関係

第 1 部-2 発症予防/耐性化の最新情報

第 2 部 感染症対策含む園/学校生活攻略法

第 3 部 感染症蔓延時の災害時に生き抜く方法

第 4 部-1 エピペンの使い方講習

第 4 部-2 吸入器の使い方講習

<その他の啓発>

アレルギー対応食展示 / 配布、アレルギー対応おやつ配布

<考察>

講座後のアンケート（55 名参加中 43 枚回収：78%）から 各講義とも概ね「大変興味深く聴けた」「興味深く聴けた」との回答で、当初想定した目的は達成できたと考える。

具体的には、初めての参加の方々からは、アレルギーの基本的なことが聞けて良かったとの評価。

入園入学を控えたお子さんの保護者からは集団生活上の注意点と日頃聞けない最新の治療（ステロイドを怖がらないこと、食べられるものは積極的に食べること等）の情報が良かったとの評価。

園関係者から患者家族への要望として、専門医を必ず受診してから食べられないもの等の相談を出してほしい要望多数あり。患者家族から園/学校関係者への要望としては、誤食や皮膚接触により

症状が出た場合の対処を勉強しておいてほしい要望多数あり。このことから、患者家族へはできるだけ多く食べられるように専門医による正確な診断を進めることと、患者家族および患児を預かる園/学校関係者への事故防止や事故があった場合の対処等の啓発が不可欠と考える。

エピペンの使い方講習については、患者家族、園/学校関係者ともに実際に器具を触って訓練できたのが大変良かったとの評価。またエピペンを使わなければいけない事象も理解できイメージできたとの評価。

対応食については、回答者の全員が通常の対応食の存在はご存じであったが、災害時の対応食については存在をご存じなかった方が9割いらっしゃったため、その啓発もできたと考える。

5. 今後の活動について

ネットの情報氾濫により、不確かな情報を見て間違った対応をする方も多くおり、新たにアレルギーと診断されたお子さんも増えてくる。そこで、専門医による正確な知識の啓発は継続する必要があると考える。

方法は、コロナウィルスの状況にもよるが今回のような講演会での啓発、ホームページやメールによる情報発信での啓発を継続していく。

今回の講座終了後

- 1) 講座内容の動画を配信で、新しく情報を知りたい方や参加なさった方々が復習できるようにしている
- 2) 講座後に個別に医師に相談したい方々がいたことから、メールでの相談受付はやってはいたが浸透していないので、医師および先輩おかあさん方への相談受け付けも広報し、年間を通

じて不安等を解消できるようにする

- 3) エピペンの使い方講習動画については、小学校、園からエピペン実地講習が中止になっているため、本動画を職員の研修の 1 つとして見せたいとの要望もあり、実地講習の代わりに動画 DVD の配布を受け付けるなどを実施する。

以上